



## Gay Dad in Canada

### カナダの Gay Dad

#### Mr. Austin

**Q. ご自身のこと、仕事と家族について教えてください。**

生まれてからずっとカナダのアルバータ州に住んでいる。自分は機械エンジニア、夫は土木エンジニアとして働いている。付き合い始めて13年、結婚して5年になる。自分はずねに家族をつくりたいという気持ちが最優先で、夫との最初のデートの際にも伝えたほどだった。現在私たちには1歳半になる娘がいる。娘の Maya は提供卵子で生まれた。つまり、ドナーと代理母は別の女性だ。

自分は代理出産について話すのが楽しい。「二人の男性が赤ちゃんを産む」というトピックは多くの人を引き付ける。ソーシャルメディアを使ってたくさんの人たちとつながり、LGBTの家族がいるという事実を広めようと思っている。

いままも機械エンジニアとして働いていて、COVID-19以来ずっと在宅勤務している。私と夫は同じ会社で働いているので、ともに家にいて、ファミリーライフを満喫できている。自分は副業として Amazon でも4年ほどビジネスをしている。アマゾンマーケットプレイスで売れ行きが良い商品を見つけ、これらの商品をさらに良いものにするためのクールで革新的な方法を考える。そして海外（主に中国）から仕入れ、米国に送って販売する。これらのプロセスをリモートで行っている。娘がデイケアにいる午前中に

仕事をして、午後は娘と過ごすという生活を送っている。

**Q. 代理出産を依頼し、子どもが生まれるまでについて教えてください。**

はじめは知らないことがたくさんあった。代理出産を経験した知り合いが一人もいなかった。はじめに訪れたエージェントは小規模で一定の地域内でしか活動をしていなかった。卵子ドナーについて自分と夫に知らせる情報をコントロールしたがった。私はより多くの情報を知りたかったので、もっと柔軟に対応できるオンラインでの活動にシフトした。これによって仲介者の存在を排除し、直接、卵子ドナーのプロフィールを見ることができるようになった。

卵子ドナーを見つけるのに6か月かかった。見つけてすぐに、彼女しかいないと感じた。すぐにエージェントにコンタクトをとった。私たちは彼女に、熱心に説得する手紙を書いて、ドナーになってくれるよう頼みこんだ。彼女は卵子ドナーになるのは初めてだった。以来、私たちと彼女の関係は続いている。医師は、カナダでは97%のカップルが匿名のドナーを選ぶと言ったが、私たちは正直でありのままでありたかった。

私たちは、カナダのクリニックとは反対側の場所へ飛び、ドナーと会い、受精卵を作った。21個の卵が採取できた。そのうち18個に受精させ、9個が受精卵となり、適格なのは6個だった。半分には私の精子を使って、残りの半分は夫のものを使った。

受精卵を作ってから代理母を探した。卵子提供をすすめてくれた会社の姉妹会社に頼むことにした。決めるまでに7-8人のプロフィールを閲覧した。私たちが



重要だと考えた条件は、例えば、出産経験があること、健康でBMIが適切であること、所定の年齢の範囲内であることなどだ。この条件のすべてを満たす人物をついに見つけて、前に進む決心をした。

代理母はトロントを生活の拠点としていたので、妊娠中に1度、出産してから1度、彼女を訪ねた。ちょうどCOVID-19が広まった頃だった。まさか出産に立ち会えるとは思っていなかったが、代理母が看護師に話してくれて、出産に立ち会うことができたのでラッキーだった。それ以来、関係が続いていて、将来、また代理出産を考えたときは彼女に依頼しようと思っている。それほど密接なつながりはないが、良い関係で、時々、写真を送りあったりしている。代理母自身には5人の子どもがいる。

私と夫は早い段階から弁護士を依頼し、卵子ドナーや代理母と契約を結んだ。この契約には、出産時の法的保護者は誰かということなどを含んでいた。代理母は経験豊富で、すでに代理母を3回やっていた。書類へのサインは出産後、直ちに、そして迅速に行われた。

### Q. 代理出産のプロセスで、大変なことはありましたか？

自分たちで課した厳しい条件のせいで、代理母を見つけるのは難しかった。また、最初の頃は、少しでもその条件を手放して代理母を信頼することは難しかった。初めて親になる身として、代理母はこうあるべきということについて少し強迫観念を抱いていたようだ。

また、代理母の居住地と距離が離れていたのが難しいこともあった。妊娠中の彼女をもっと見ることができればよかったのと思う。彼女に掛かった経費はす

べて補償されたが、代理出産そのものについての補償はなかった。利他的だったということだ。契約で規定された上限額があった。おかげで、金銭面の話し合いが必要なかったのが気が楽だった。

### Q. LGBT friendly を標榜しているエージェントを選ぶべきでしょうか？

それについては、カナダのエージェントだったらどこも問題ないだろう。彼らは顧客が家族をつくる手助けをすることを目的としているので、その家族構成がゲイやレズビアンであろうが、ストレートであろうが重要ではない。

### Q. 子どもが産まれてから、ワークライフ・バランスやパートナーシップに変化は生じましたか？

ワークライフバランスについては、はっきりと変化があった。父親になる前は、娘の睡眠パターンについて楽観的に考えていたし、彼女が寝ている間に仕事をうまく片付けることができるだろうと簡単に思っていた。実際は、一日のほとんどの時間を彼女と過ごしているのが、労働時間は不足している。それは構わないのだが、空いた時間を有効に使う能力が不可欠だ。

夫との関係も、よい意味で確実に変化している。夫が自分の子どもと接しているのを見るのは喜ばしい。以前にも増して彼に愛情を感じる。二人きりで過ごす時間をつくることは簡単ではないうえに、お互いの両親から子育てを助けてもらおうと思ってもCOVID-19で全部ダメになった。しかし、今は外部からの援助が得られるようになってきた。いいこともあれば悪いこともあった。



**Q. 親としての経験は人生をどのように変えましたか？**

いちばん大変なのは時間を見つけること。性格的に忙しくしているのが好きで、副業も気に入っている。そこで、優先順位を付けることにした。娘がなよりも優先で、その次に何をやるかを自分で選ばなければならない。

自分にとって大きな喜びは教えることと、ささいな瞬間だ。子どもたちがほんの短い時間で多くのことを学ぶのは驚きだ。

自分が親になり、振り返ってみると、親が自分にどれだけのことをしてくれたか、本当の意味で理解はしていなかったと思う。自分には遺伝上のきょうだい3人、養子縁組のきょうだい3人いる。どのようにして両親が全てをやりくりしてやり遂げたか、想像もつかない。前よりももっと、両親をありがたいと感じるようになった。

**Q. 卵子ドナー、代理母とどのように付きあっていますか？**

彼女たちとは友人としてつきあっている。日々の子育ての問題で、彼女たちに依存していると思いたくはないが、健康の問題など、シリアスなことも含めて、心配事があれば、気楽に話せるような関係でいたい。しかしそれは、すごく密接な関係というわけではない。

夫と私は「Mom (お母さん)」という言葉は使わない。卵子ドナーのことを指して「お母さんはどうしている？」と聞いてくる人もいるだろう。やっぱり母親が必要だ、と娘には思っほしくないの、私たちは娘といるときは“お母さん”という言葉を使わない。

**Q. オープン・ドナーを選ぶ Gay Dads は少ないと聞きます。それはどのような理由からでしょうか？**

彼女たちと関係を持つのは良いことだと思っている。子どもは、父親から産まれたわけではないといずれ知るだろう。だから、ドナーが誰かを知っているのは良いことだ。秘密にすればするほどもっと知りたくなるものだ。私と夫はドナーや代理母のことを隠そうと思ったことは一度もない。

**Q. 子どもの出自を知る権利について、LGBT コミュニティではどのくらい啓発されていますか？**

個人的には、娘が将来、出自を探る機会を得ることは非常に重要なことだと考えている。しかし、ゲイコミュニティ全体がどうかについては、わからないので、自分から話せる情報はない。

もし、娘が、特別そのことに興味がないうようなら、それはそれで問題ない。

**Q. 子どもを育てている現在、大変なことは何ですか？**

娘が最近気に入っている言葉は「NO」で、なんにでも「NO」と言う。本当はやりたいと思っほいてもだ。これをうまくやり過ごすために、私と夫は「YES」と「NO」以外の選択肢を与えるようにしている。今のところうまくいっているようだ。

現時点でもう一つ大変なことは、社会性を育むこと。COVID-19で人と直接会うことが限られている。デイケアは社会性を養うには最適な場所だが、COVID-19を恐れているほかの親たちに無理やり交流を求めるのは躊躇している。



**Q. 子どもに代理出産のことは話していますか？**

まだ娘には代理出産のことは話していない。多様な家族や代理出産に関する本はいくつか持っているのですが、それを使って彼女に知ってもらおうとしているが、まだ幼いので全部は理解できないようだ。

いつかは娘を代理母と卵子ドナーに会わせたい。卵子ドナーは最近、子どもを出産した。将来私たちに紹介したいと言っている。卵子提供の際の契約の条項の一つに、当事者のそれぞれが子どもを持った場合、子どもの名前と所在地を開示しなければならないというものがある。それは、将来、子どもたちがデートすることを防ぐため。

**Q. 子どもの学校生活について、心配なことはありますか？ カナダでは、Gay Dadsを持つ子どもは、たくさんいますか？**

子どもが孤立する可能性がある状況や環境に入る際は、親ならだれでも心配せず。私たちが娘に望むことは、自信をもって生きてほしいということ。私たち家族はほかとは違うが、問題はない。1月初めに娘は幼稚園に通い始める。私は、受け入れる環境が整っているか事前にその幼稚園をよく調べた。すべてにおいて、私たちは自信をもって娘を育てたいと思っている。

カナダにはかなり多くのゲイペアレンツがいるだろう。COVID-19があって、多くの人たちとは交流できていない。自分が住んでいる地域で、ゲイペアレンツの知り合いはいないが、いずれ会いたいと思う。

**Q. Gay Dads 向けのグループがたくさんあるようです。そのようなグループに加入していますか？**

Men Having Babies が主催のパネルディスカッションに参加したことがある。そこで子育てについて話をした。ほかの父親たちと会うことができ良かった。インスタグラムでもそのような交流を持つことができる。

私と夫は、最初の代理出産のエージェントを見つけるためにグーグルを利用した。なぜなら、誰かと直接、顔を見ながら話したかったから。そうすることで後々、確信をもってプロセスに参加することができた。

カナダには大規模なサポートグループはないが、自分たちが住んでいる地域には、クィアペアレンツ向けの小規模のサポートグループがある。そのフェイスブックを見たことがある。こうしたグループで交流を持ちたいと思うが、ストレートカップル向けのグループにも同じくらい参加したいと思っている。特にLGBTのグループに参加したいと強く思っているわけではない。しかしより一般的なサポートグループを探したいと思っている。

ソーシャルメディアを通して自分はインフルエンサーになり、色々な関係を持つことができた。コンタクトをしてくるのは、ほとんどが中東やヨーロッパの人たちだ。質問の多くはカミングアウトに関すること。彼らは私がやってきたことを見て、同じようにやりたいから。

**Q. 経済的な理由で代理出産を諦めるゲイカップルは多いでしょうか？**



その通りだ。私たちは給料の良い仕事に就いていたため、代理出産に際してローンを組み必要はなかった。多くの人が代理出産で家族をつくりたいと思っているのにそれができないのは、経済的な余裕がないから。費用は家の頭金以上かかる。ストレートカップルにとっても同様に高額なものだ。不妊はカナダでは障害と見なされないため政府による一部助成金は出ない。

家族計画において、お金は確実に心配事となる。しかし、私にとってお金は問題とはならない。家族のほうが大切。私は元々子どもを4人持ちたかった。しかし、夫は二人だけでいいと言っている。妥協案を探っているところ。

**Q. なぜ、他の人と比べて迅速に代理出産のプロセスをすすめることができたのでしょうか。**

代理出産に要する時間については、当時私たちは全然知らなかったが、私たちの卵子ドナーは完全にオープンでいてくれ、幸運だった。私たちがプロセスを迅速に進めることができたのはタイミングが良かったことと幸運が重なったから。

私と夫にはあと5つの受精卵が残っている。二つは私のもので、三つは夫のもの。卵子ドナーを選ぶとき、夫の外見とマッチするように、濃い肌の色の人を意識的に選んだ。Mayaは、遺伝上は私の娘だが、夫によく似ていると多くの人言う。私の受精卵を使ってあと2回代理出産にトライしてみようと考えていて、その時は同じ代理母にお願いしようと思っている。彼女は現在妊娠中で、あと二週間で生まれる予定だ。9回目の出産となる。もし彼女にお願いしたら、彼女にとってそれは10回目の出産となるだろう。

う。医療面での懸案はすでに解決している。すでに良好な関係を築いているから、同じ代理母に頼むのが安心だ。しかし、法律関連のことをよりきちんとするために、次回もエージェントを通すつもり。

エージェントと契約を結ぶ際に、私たちは2回の出産の保証をカバーする、高額なオプションの方を選んだ。だから、二人目の子どもの時も同じエージェントを利用しなければならない。

**Q. カナダで代理母を見つけることができなかった場合、海外へ行くことは選択肢にありましたか？**

これについては、私も夫も選択肢として考えたことはなかったが、可能性としては全くないというわけではなかっただろう。絶望的になったことはなかった。いつも時が来ればピッタリな人を見つけられると思っていたから、海外に目を向けるほどの苦境に立たされたことはなかった。私たちのエージェントはカナダを拠点としていたが、海外からの依頼者はたくさん来ていた（特にフランスから）。

**Q. エージェントで審査はありましたか。**

私と夫が親となるのにふさわしいか確かめる精神医学的な審査がひとつあった。また、精子生存率の検査も行った。卵子ドナーと代理母にも複数の審査があった。

**Q. エージェントで、子どもの知る権利について何かガイダンスはありましたか？**

特になかった。カナダの法律に従った子育ての基本に関する文書はもらった。



通常通り、出産の次の週に看護師の訪問があった。彼女はゲイのカップルと働いていて、好ましい人だった。しかしその時も、知る権利に関する公式の手引きはなかった。

#### Q. その他、コメント

私は子供のころから信心深く、教会へ通うのが楽しかった。しかし、娘にこのことを説明するのは難しい。キリスト教から、価値あることや大人になるために必要なことを教わることができる。しかし、もし同性愛者に敬意を払わず、尊重しない教会にいる場合、自分たちについてわかってもらったり、正当化したりすることは難しい。

子どものころからずっと通っている教会がある。そこの人たちはありがたいことに愛情深く寛容だけれど、私たちのような家族を好まない人たちにどうやって理解してもらえばいいのかわからない。教会を変えようかとも思うが、彼らと強い一体感を持っている今となってはなかなか難しい。

(2011年11月)

Austin [Link](#)

夫との間に代理出産で生まれた娘がひとりいる。職業は機械エンジニア。副業として FBA（フルフィルメント By Amazon の略。Amazon の倉庫に商品を保管し、注文後の梱包や発送、返品などの配送業務を代行するサービス）も行っている。

インスタグラム(@austnplz)やブログなどで家族の様子を発信している。